

**科学研究費助成事業 研究成果報告書**

平成 28 年 6 月 1 日現在

機関番号：12601

研究種目：基盤研究(A) (一般)

研究期間：2012～2015

課題番号：24242025

研究課題名(和文) 正倉院文書の多元的解析支援と広領域研究資源化

研究課題名(英文) Shosoin Documents Multi-dimensional Analysis Support and Widespread Academic Resources Enlargement

研究代表者

山口 英男 (YAMAGUCHI, Hideo)

東京大学・史料編纂所・教授

研究者番号：40182456

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 34,000,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、正倉院文書の分析に要する基礎的作業を効率化するとともに、文化資源として極めて高い価値を有する正倉院文書のより広領域な学術分野における研究利用を促進するため、正倉院文書マルチ支援(多元的解析支援)データベースSHOMUSを開発した。その結果、2015年7月にSHOMUSの一般公開を開始し、研究期間終了時点の登録データ数は53,500件に達した。正倉院文書の学術利用のための環境は本研究によって飛躍的に改善された。

研究成果の概要(英文)：In this research we developed "Shosoin Documents Multi-dimensional Analysis Support Database (SHOMUS)" in order to improve the efficiency of basic work needed to analysis of Shosoin Documents and also to promote the research use of Shosoin Documents that has extremely high value as cultural resources in more widespread academic fields. As a result, we started the general release of SHOMUS in July 2015, and the number of registered data amounted to 53500 at the end of the research duration. The environment for the academic use of Shosoin Documents was improved drastically by this research.

研究分野：日本古代史

キーワード：正倉院文書 SHOMUS 東大寺写経所 史料学 古文書学 書類学 日本古代史 歴史情報論

## 1. 研究開始当初の背景

正倉院文書は、奈良時代の官司において現実に使用された文書・帳簿等 1 万点以上からなる大規模な一次史料群で、日本古代の政治・経済・社会・生活・思想・仏教・官司・教育・文学・書道・美術・都市・建築・服飾・食物・医療等、多くの分野に生の知見を豊富に提供する学術資源である。

正倉院文書研究は、1980 年代以降、写経所文書としての検討が進展したことで新たな活性化の局面を迎えた。日本古代史・奈良時代史に多くの新たな知見がもたらされ、正倉院文書が未抽出な歴史情報の宝庫であることがあらためて認識された。その一方で、正倉院文書の基礎的解析に要する多元的作業の複雑さ・膨大さ、一挙に高度化・精緻化した研究レベルをフォローすることの困難さが浮き彫りとなり、プロパーでない研究者にとっての近寄りにくさも生じてきた。いわば研究展開の「踊り場」に差し掛かった状況にあった。

## 2. 研究の目的

こうした「踊り場」状況を打破し、新たな研究展開のための推進力を提供することが、本研究の目的であった。そのため、2 つの方向から研究環境の改善を図ることを計画した。

第 1 は、多元的解析支援システムを構築することによって、正倉院文書研究の基盤となる断簡解析の推進と、その効率化を実現することである。表裏に文字があり、多数の断簡に分かれるという特性から、正倉院文書研究の基礎は断簡解析（関連のある断簡を拾い出し、相互に参照して断簡の配列を検討し、文書の内容・年代・機能等を解析判定する）にある。1980 年代以降の研究の活性化は断簡解析の手法の確立・高度化をもたらしたが、一方で多元的解析作業の複雑さ・膨大さをも浮き彫りとした。研究者個々のレベルでの尽力は限界を迎えており、この問題を解消させることで、今後の研究を活性化させる効果が期待できる。

第 2 は、正倉院文書の広領域研究資源化である。これまでに蓄積された研究内容へのアプローチを容易化し、文化資源として優れた価値を有する正倉院文書により広領域な学術利用を促進する方向である。

## 3. 研究の方法

この目的を達成するため、次の内容で研究を進めた。

### (1) データベースの構築

史料編纂所歴史情報処理システム SHIPS 上に正倉院文書マルチ支援(多元的解析支援)データベース SHOMUS を構築した。同データベースは、多元的情報を断簡ごとに繋留するための「断簡情報基盤データベース(基盤 DB)」を核に、各種の個別情報 DB (画像・テキスト・接続・調査所見・研究内容等)と、

解析支援・広領域資源化のためのサブシステム群(相互リンク・多元情報表示・研究文献検索等)で構成した。中でも、研究文献検索サブシステムは、正倉院文書の一点一点について、それに言及のある研究文献の検索を可能とするものであり、広領域研究資源化の核となる機能である。

### (2) データ生成

SHOMUS の基幹となる基盤 DB のデータ入力・整理・登録を行った。正倉院文書のうち正集・続修・続修後集・続修別集・塵芥・続々修(第 1~7 帙)の約 3,700 断簡についてデータ生成を終了し、残る続々修(第 8~47 帙)については暫定データの形で整備を終えた(約 5,000 断簡)。また、個別情報 DB の断簡積文・画像情報・研究文献索引のデータを生成・蓄積した(順に約 4,600 件、14,500 件、30,700 件)。

### (3) 断簡解析

正倉院文書の断簡解析作業を推進し、正集から続々修第 13 帙までの断簡解析を完了した。あわせて、続々修第 14 帙以降についても暫定的な断簡解析を実施した。

### (4) 研究連携

SHIPS 電子くずし字字典 DB 及び奈良文化財研究所・木簡字典 DB と連携して、正倉院文書の字形・字体データ約 12,500 件を生成した。また、関係の研究機関との間で正倉院文書に関わるデータ連携のための ID コード共用化等について検討を進めた。

## 4. 研究成果

### (1) データベースの公開

SHOMUS 正倉院文書マルチ支援 DB について、試験公開(2014 年 3 月、部内限定)を経て、2015 年 7 月より一般公開を開始した。これにより、正倉院文書の断簡ごとの原本情報・調査情報・テキスト情報・断簡接続情報・研究情報や人名・地名情報等を一々探索・参照する基礎的解析作業の手間と時間を飛躍的に低減することを可能とした。また、同年 8 月に、研究文献検索サブシステムを付加・公開し、広領域学術利用を促進するための研究アプローチの改善を実現した。

この結果、SHOMUS への国内外からのアクセスは月平均約 9,000 件に達した。また、米国ヴァンダービルト大学ホームページ(<https://my.vanderbilt.edu/shosoin/2015/08/new-online-shosoin-resource-via-tokyo-historiographical-institute/>)でいち早く詳細に紹介されるなど、国際的にも注目された。

### (2) 断簡解析成果の公開

続々修第 5~7 帙(35 巻・約 170 断簡)の断簡解析の成果を、東京大学史料編纂所編『正倉院文書目録』7(続々修 2)として刊行した(東京大学出版会、2015)。

(3)成果の発信・普及

研究成果の発信については、下記に示したが、その中で論文「正倉院文書と古代史料学」(2016)は、正倉院文書の時期区分を行うという方法で、鳥瞰的な研究アプローチを容易化する試みであり、広領域研究資源化促進の効果を狙ったものである。

また下記のほかに、大手新聞社・カルチャーセンター・市民団体・民間団体等の主催による多数の講演・講座を担当し、市民向け・社会向けの情報発信を行った。

5. 主な発表論文等

[雑誌論文](計40件)

山口英男、正倉院文書の書類学、日本史研究643、2016、1-20、査読無

山口英男、正倉院文書と古代史料学、岩波講座日本歴史22巻、2016、321-348、査読無

山田太造、東京大学史料編纂所の編纂とその業務にともなうデータベース、「史料がつなぐ大学と博物館「研究循環アクセスモデル」の構築に向けて」予稿集、2016、52-55、査読無

山口英男、正倉院文書の機能情報解析 口頭伝達と書面、国立歴史民俗博物館研究報告194、2015、127-145、査読有

馬場基・渡辺晃宏・井上聡(2~4番目、3名省略)古文書字形デジタルアーカイブのための検索システムの試作、じんもんこん2015論文集、2015、9-15、査読有

山口英男、史料編纂所と正倉院文書調査、国立歴史民俗博物館研究報告192、2014、33-39、査読有

仁藤淳史、正倉院文書研究と歴博複製事業の役割、国立歴史民俗博物館研究報告192、2014、57-64、査読有

小倉慈司、『正倉院文書拾遺』後の庫外正倉院文書、国立歴史民俗博物館研究報告192、2014、111-115、査読有

後藤真、正倉院文書のデジタル化の意義と課題、国立歴史民俗博物館研究報告192、2014、193-204、査読有

山口英男、史料編纂所と正倉院文書、(広報誌)歴博185、2014、6-9、査読無

山口英男、正倉院文書は宝の山、東京大学史料編纂所編『日本史の森を行く』、2014、4-8、査読無

稲田奈津子、聖武天皇の葬列と純金観音像、東京大学史料編纂所編『日本史の森を行く』、2014、96-100、査読無

渡辺晃宏、平城京と貴族の生活、岩波講座日本歴史3巻、2014、141-178、査読無

山口英男、正倉院文書に見る文字の世界、国立歴史民俗博物館・平川南編『古代日本と古代朝鮮の文字文化交流』、2014、146-171、査読無

山口英男、正倉院文書から見た「間食」の意味について、正倉院文書研究13、2013、

154-170、査読無

栄原永遠男、岸俊男の正倉院文書研究と皆川完一、正倉院文書研究13、2013、192-215、査読無

後藤真、内藤求、正倉院文書トピックマップへの知識情報の充実、『人文科学とコンピュータシンポジウム』論文集2013、2013、79-86、査読有

長島由香、山口英男、『正倉院文書と古代中世史料の研究』正倉院文書索引(帙巻淳・刊本順)止まざる心 皆川完一先生追悼文集、2013、134-186、査読無

稲田奈津子、文献案内 市川市史編さん歴史部会(古代)下総国戸籍研究グループ編集『市川市史編さん事業調査報告書 下総戸籍』写真編 釈文編・解説編、東京大学史料編纂所画像史料解析センター通信58、2012、29、査読無

[学会発表](計29件)

栄原永遠男、正倉院文書の構成 吉田孝氏の表の再検討、第34回正倉院文書研究会、2015年10月24日、大阪市立大学文化交流センター(大阪府大阪市)

栄原永遠男、正倉院文書からみた奈良時代の悔過、第34回正倉院文書研究会、2015年10月24日、大阪市立大学文化交流センター(大阪府大阪市)

山口英男、正倉院文書マルチ支援システムSHOMUSの概要、第34回正倉院文書研究会、2015年10月24日、大阪市立大学文化交流センター(大阪府大阪市)

山口英男、正倉院文書の書類学、日本史研究会大会、2015年10月10日、京都大学吉田キャンパス(京都府京都市)

後藤真、内藤求、Digitalization of Shosoin Monjo and Extraction of Knowledge, Annual international conference of the Alliance of Digital Humanities

Organizations、2015年7月2日、西シドニー大学(シドニー・オーストラリア)

山口英男、An Official at the Naracourt: Takaoka-no Hiramaro, Writing and Know-how 高丘比良麻呂の書類作法、University of Southern California The Project for Premodern Japan Studies Kambun Workshop 2014、2014年7月25日、南カリフォルニア大学(ロサンゼルス・米国)

山口英男、正倉院文書マルチ支援システムSHOMUS開発とその狙い、東京大学史料編纂所[共同研究拠点と歴史情報]シンポジウム「史料情報の新たな発信」、2014年1月24日、東京大学福武ホール(東京都文京区)

山口英男、古代官司の書類と業務 正倉院文書の解析から、人間文化研究機構連携研究「人間文化資源の総合的研究」研究班合同研究会「前近代日本における官僚制的文書主義」、2013年9月7日、国文学研究

資料館(東京都立川市)

井上聡、『電子くずし字字典データベース』の課題と将来構想、情報処理学会 人文科学とコンピュータ研究会報告、2013年1月25日、東京大学史料編纂所(東京都文京区)

山口英男、正倉院文書に見える文字の世界、国立歴史民俗博物館国際シンポジウム「古代日本と古代朝鮮の文字文化交流」、2012年12月15日~16日、イイノホール(東京都千代田区)

山口英男、正倉院文書に見える「間食」について、第31回正倉院文書研究会、2012年10月27日、大阪市立大学文化交流センター(大阪府大阪市)

山口英男、正倉院文書に関する史料学情報の研究資源化連携、東京大学史料編纂所共同利用・共同研究拠点研究集会「日本史史料共同研究の新たな展開」、2012年10月13日、東京大学福武ホール(東京都文京区)

山口英男、On the Run in the Nara Period:How the World Looked to an Escaped Corvee Worker 奈良時代における或る使役民逃亡事件の分析、University of Southern California The Project for Premodern Japan Studies Kambun Workshop 2012、2012年7月20日、南カリフォルニア大学(ロサンゼルス・米国)

〔図書〕(計 1件)

栄原永遠男、聖武天皇と紫香楽宮、敬文社、2014、320

〔その他〕

ホームページ(データベース)

東京大学史料編纂所歴史情報処理システム SHIPS・正倉院文書マルチ支援(多元的解析支援)データベース SHOMUS  
[http://www.wap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/ship\\_scontroller](http://www.wap.hi.u-tokyo.ac.jp/ships/ship_scontroller)

## 6. 研究組織

### (1)研究代表者

山口 英男(YAMAGUCHI, Hideo)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号: 40182456

### (2)研究分担者

渡辺 晃宏(WATANABE, Akihiro)  
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・副部長  
研究者番号: 30212319

後藤 真(GOTO, Makoto)

国立歴史民俗博物館・研究部・准教授  
研究者番号: 90507138

稲田 奈津子(INADA, Natsuko)

東京大学・史料編纂所・助教

研究者番号: 60376639

栄原 永遠男(SAKAEHARA, Towao)  
大阪市立大学・文学研究科・名誉教授  
研究者番号: 80102979  
(2014年度より連携研究者)

### (3)連携研究者

仁藤 敦史(NITO, Atsusi)  
国立歴史民俗博物館・研究部・教授  
研究者番号: 30218234

小倉 慈司(OGURA, Shigeshi)  
国立歴史民俗博物館・研究部・准教授  
研究者番号: 20581101

馬場 基(BABA, Hajime)  
独立行政法人国立文化財機構奈良文化財研究所・都城発掘調査部・主任研究員  
研究者番号: 7033219

井上 聡(INOUE, Satoshi)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号: 20302656

山田 太造(YAMADA, Taizo)  
東京大学・史料編纂所・助教  
研究者番号: 70413937

### (4)研究協力者

田島 公(TAJIMA, Isao)  
東京大学・史料編纂所・教授  
研究者番号: 80292796

厚谷 和雄(ATSUYA, Kazuo)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号: 80143535

遠藤 基郎(ENDO, Motoo)  
東京大学・史料編纂所・准教授  
研究者番号: 40251475

飯田 剛彦(IIDA, Takehiko)  
宮内庁・正倉院事務所・保存課調査室長

佐々田 悠(SASADA, Yu)  
宮内庁・正倉院事務所・保存課調査室員

山下 有美(YAMASHITA, Yumi)  
(元)和泉市教育委員会